

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	05	124070	市有財産適正管理事業費	
総合計画	分野	05	行政経営	政策	02 持続可能で健全な財政経営	
	施策	03	市有財産の適正な管理			
目的	持続可能で健全な財政運営のため、市有財産の適切な維持管理と有効な活用を図る。					
対象	市有財産					
意図	財産収入の増及び維持管理経費の削減のため、未利用市有財産の削減を図る。					
事業概要	<p>市有財産の最適利用 51,639千円 (1) 公売 公売予定地の測量及び地籍調査、宅地建物取引業団体への売却媒介依頼 1,339千円 (2) 旧料亭「まん福」の解体 40,777千円 (3) 旧料亭「まん福」跡地活用検討ワークショップ開催業務 206千円 (4) 田瀬地域の用途廃止した公共施設のアスベスト調査及び解体実施設計 5,005千円 (5) 亀ヶ森小学校改修実施設計 4,312千円</p> <p>公共施設マネジメント計画の推進 30千円 公共施設の最適な施設保有量・配置・コストの縮減、平準化の実現のため、令和2年10月に策定した公共施設マネジメント計画の実施計画を推進するとともに、花巻市公共施設マネジメント計画【基本方針編】の改訂を検討する。</p>					
市民参加の有無	無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	市有財産公売公募件数	件	計画	10.00	3.00	
			実績	9.00	5.00	
2	未利用市有財産貸付件数	件	計画	60.00	60.00	
			実績	43.00	41.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	未利用市有財産収入	千円	目標	40,000.00	40,000.00	
			実績	37,210.00	32,994.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
利活用の予定のない市有財産は、不動産鑑定評価及び土地の測量調査等を行い、適正な販売価格を確認し、ホームページや広報「はなまき」に掲載を行い、広く周知を行った上で、市有財産の公売をするとともに、貸付を行い、遊休財産の有効活用を図った。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市有財産に関することであり、市が主体的に取り組む事務事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	売却、貸付可能物件の選定により、件数の向上余地がある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	各事業にかかる経費は必要最小限としている。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市有地の公売は公募により行い、貸付は貸付要領に基づいて行うこととしており、特定の者を受益者としなないことから、公平適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	利活用の予定のない市有財産について、適切な価格で売却すること及び土地貸付を行うことにより、財産収入の増と維持管理コストの削減を図った。公共施設の最適な施設保有量・配置・コストの縮減、平準化を実現するため、公共施設マネジメント計画の実施計画のローリング及び花巻市公共施設マネジメント計画【基本方針編】へ効果額等を反映させた改訂を進める。なお、マネジメント先進地の視察やマネジメント研究会への参加は、新型コロナウイルスの影響を考慮し見送った。
	次年度に向けて	引き続き、利活用の予定のない市有財産について、適切な価格で売却すること、及び土地貸付を行うことにより、財産収入の増と維持管理コストの削減を図る。公共施設の最適な施設保有量・配置・コストの縮減、平準化を実現するため、公共施設マネジメント計画の実施計画のローリング及び花巻市公共施設マネジメント計画【基本方針編】へ効果額等を反映させた改訂を進める。

令和3年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	02	01	05	124080	庁舎設備等改修事業費	
総合計画	分野	05	行政経営	政策	02 持続可能で健全な財政経営	
	施策	03	市有財産の適正な管理			
目的	庁舎の機能を維持するため、老朽化した設備等の改修を行い、長寿命化を図る。					
対象	本庁舎及び3総合支所					
意図	設備等の改修により、庁舎の安全確保と省エネルギー化を図り、適切な維持管理を行う。					
事業概要	本庁舎設備改修事業 49,546千円 ・本館照明設備第4期改修(工事) 20,724千円 ・本館給排水工事第3工区(工事) 7,920千円 ・庁舎設備更新等業務委託 2,020千円 ・設計等業務 3,080千円 ・PCB廃棄物処理 14,106千円 ・AED設置 1,696千円 大迫総合支所設備改修事業7,678千円 ・電話交換設備更新 7,678千円					
市民参加の有無	無					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	R02	R03	R04
1	設備改修	箇所	計画	2.00	3.00	
			実績	2.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	R02	R03	R04
1			目標			
			実績			
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	-	目標値より高い	-	概ね目標値どおり	-	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析(成果指標を設定しない場合は、その理由を記載)		
庁舎の修繕および改修により、建物の長寿命化を図ることとしている。 具体的な目標とする指標が設定が困難な事業と考えられ、成果指標の設定は行わない。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市有財産に関することであり、市が主体的に取り組み事務事業である。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	最新の設備を取り入れることにより、効率化を図る。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	最新の設備を取り入れることにより、コストの縮減に努める。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市有財産に関することあり、特定の者を受益者としなから公平適正である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	庁舎の設備等について、最新の機器に改修もしくは修繕することにより、より効率的な施設とすることができた。更に施設の長寿命化が図られ、行政コストの削減につながった。
	次年度に向けて	引き続き、各庁舎の設備等について、最新の機器に改修もしくは修繕することで、より効率的な施設としていく。更に施設の長寿命化を図り、行政コストの削減につなげていく。